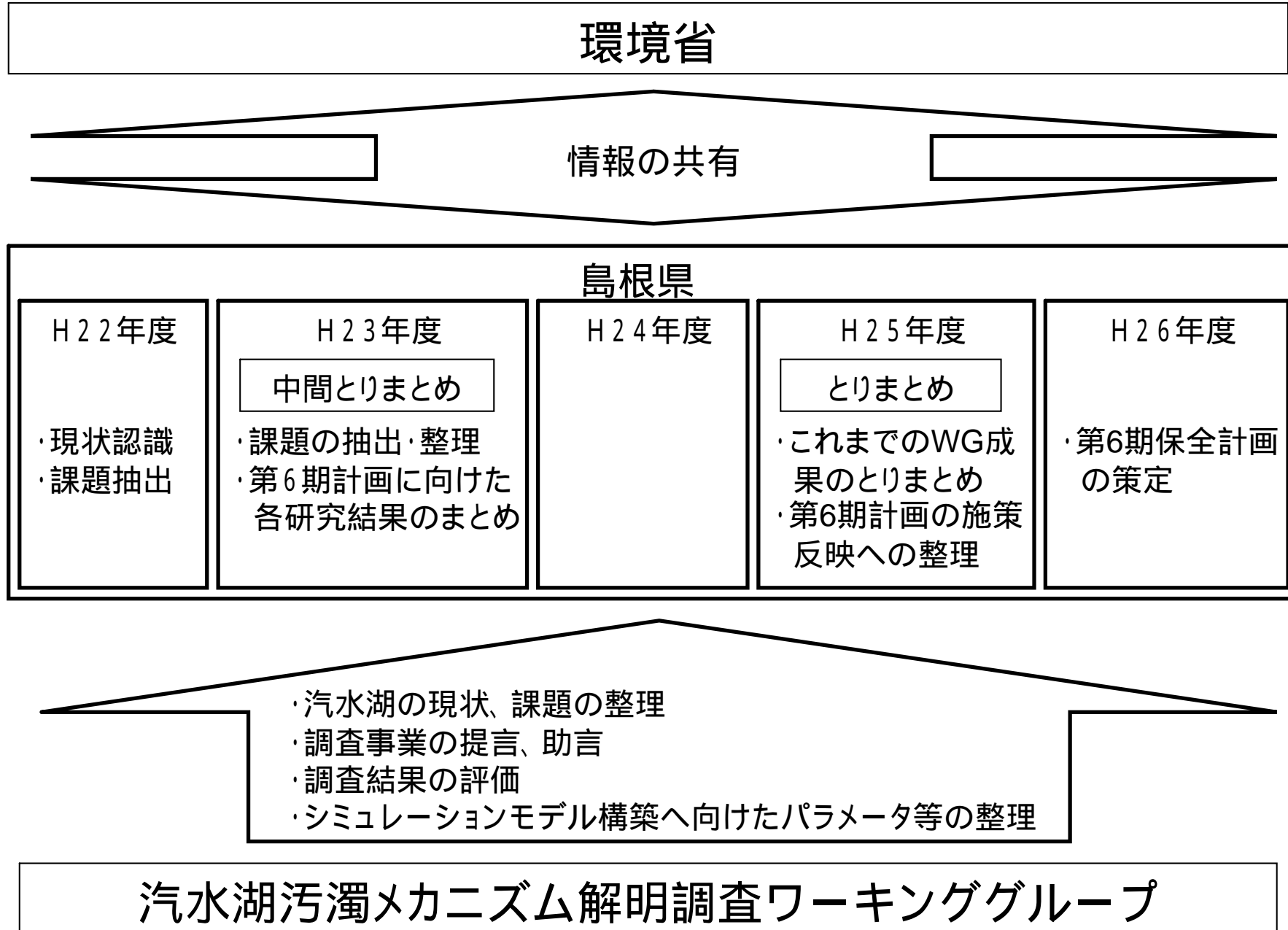


# 今後の調査について

# ワーキンググループの今後の予定



# ワーキンググループのH25年度までの目標

## 1. 物質収支の解明

- ・ 流入(原単位)負荷量把握の精度向上  
(斐伊川連続調査 原単位を精査)
- ・ 湖底と湖水の物質収支から出入り量の検証  
(湖心高頻度調査 底質調査 等)

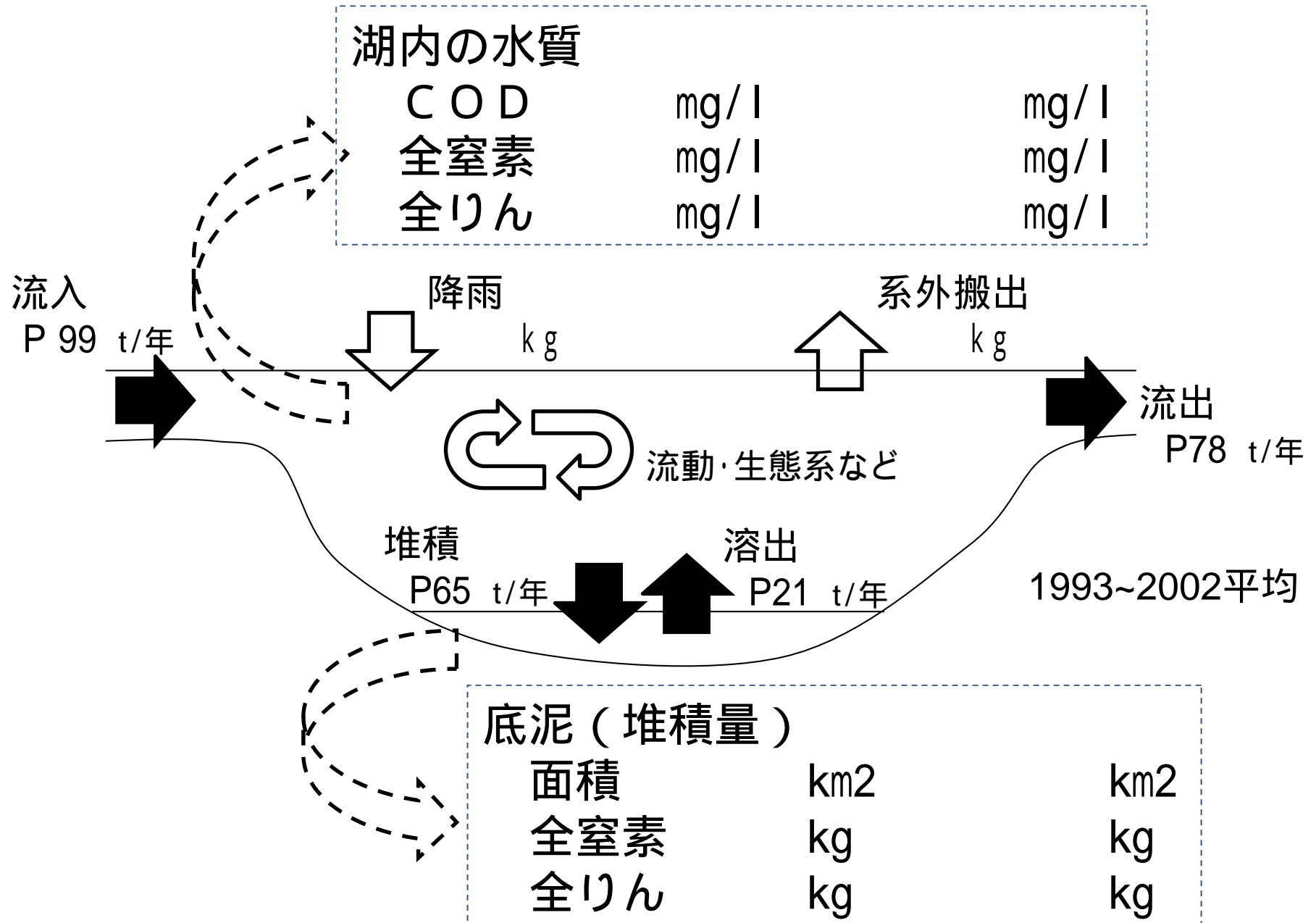
## 2. 施策効果検証のためのシミュレーションモデルの構築

- ・ 塩分収支(流動)、水質の再現性向上。  
(地形データの整理 塩分遡上に係る溶存酸素の挙動の把握)

## 3. 第6期保全計画へ具体的施策を反映

- (シミュレーションモデルによる施策評価等。)

# 「汽水湖の現状(収支等)の整理」のイメージ



# これまでのWGの主な意見

主な意見等	対応方針(案)
<p data-bbox="226 341 607 419">負荷量について</p> <ul data-bbox="264 448 1099 612" style="list-style-type: none"><li>・流入負荷量の正確な把握が重要。</li><li>・底質の現状、影響等の把握が重要。</li><li>・測定結果による収支全般の把握が重要。</li></ul>	<p data-bbox="1144 333 1621 384"><u>物質収支(りん)の解明</u></p> <p data-bbox="1182 389 1995 560">原単位の精査により流入負荷量把握の精度を向上させる。 底質の現状等を調査する。</p>
<p data-bbox="226 649 696 727">塩分成層について</p> <ul data-bbox="264 756 1099 863" style="list-style-type: none"><li>・塩分成層による酸素の挙動、それに伴う栄養塩の溶出についての把握が重要。</li></ul>	<p data-bbox="1144 641 1491 692"><u>塩分成層の把握</u></p> <p data-bbox="1144 697 1962 804">大橋川からの塩分遡上の状況や溶存酸素の挙動について、連続調査する。</p>
<p data-bbox="226 900 819 978">難分解性有機物について</p> <ul data-bbox="264 1007 994 1114" style="list-style-type: none"><li>・溶存態CODが約7割を占めている。</li><li>・難分解性有機物の把握が重要。</li></ul>	<p data-bbox="1144 892 1637 943"><u>難分解性有機物の把握</u></p> <p data-bbox="1144 948 2013 1114">難分解性有機物の存在状況を調査する。 植物プランクトンと溶存態CODとの関係を解析する。</p>
<p data-bbox="226 1150 909 1228">シミュレーションモデルについて</p> <ul data-bbox="264 1257 1070 1422" style="list-style-type: none"><li>・長期的傾向の把握が重要。</li><li>・流動(塩分流入)の再現性向上が重要。</li><li>・易分解、難分解の区分が重要。</li></ul>	<p data-bbox="1144 1142 1621 1193"><u>検証版のモデルを構築</u></p> <p data-bbox="1182 1198 1995 1305">施策の効果検証が簡易に行えるモデルを構築する。</p>

# 島根県の調査研究(案)について(その1)

	H22	H23	H24	H25	H26
汽水湖における汚濁解明調査事業					
<b>流入河川連続調査</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 斐伊川(神立橋)において365日調査</li> <li>・ CODや全窒素、全りん等について分析</li> </ul>		↔			
<b>湖心高頻度調査</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宍道湖湖心において、週1回の頻度で調査</li> <li>・ 水深1m毎に採水、水質、PPを測定</li> <li>・ STDを用いて水深10cm毎の水温、塩分等を測定</li> </ul>		↔			
<b>原単位に係る調査</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小規模事業場の排出水調査</li> </ul>		←	→		
<b>シミュレーションモデルの構築</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 検証版のモデルの構築について検討</li> <li>・ 地形データの精査など空間分割の検討、1999年データを用いた塩分再現向上の検討(H23)</li> <li>・ 1999～2011年の塩分再現向上の検討(H24)</li> <li>・ H22.7.1～H23.6.30の水質再現向上の検討、長期</li> </ul>		↔	←	→	←
<b>底質調査(案)</b> <small>湖の水質再現(H25)</small>		←	→		



# 環境省の調査研究(平成22年度以降の予定)

	H22	H23	H24	H25
窒素リン比変動による水生生態系の影響等調査(H21～23) ・窒素リンと植物プランクトンの調査(H21穴道湖を含む4湖沼で調査済み) ・窒素リン比変動による水生生態系の影響検討(H22～23)	←→			
底層DO等を用いた水質環境評価事業(H22～23) ・下層DO、透明度調査(穴道湖を含む4湖沼、1海域で調査実施)	←→			
湖沼水質保全施策枠組み再構築事業(H22～24) ・全国指定湖沼の水質状況・施策実施状況の整理(H22) ・今後の湖沼水質保全の在り方の検討(H23)	←→			
湖沼の環境情報の整理手法の検討(H22) ・モデルケース:穴道湖	←→			
湖岸・沿岸帯の自然浄化機能の検討(H23～25) ・自然浄化活用事業(穴道湖を含む4湖沼で実施、追加調査)		←→		
汽水湖に関する検討(H23～25) ・全国の汽水湖の現状と課題整理(H23)		←→		
面源からの汚濁負荷検討(H23～25) ・原単位算定マニュアルの策定(H23～24)		←→		